

キーウ、ハルキウ、ヘルソン、ドネツク、サポリージャ、ルハンシク、バフムト……アメリカ以外の国でこれだけ多くの町の名前を言えるのは、ウクライナくらいだろう。早くロシアが粉々に砕けて欲しいと思うのは多くの日本人の本音だ。なんでドイツはガツンとヘルプしないのかね（1月14日現在）。あの時は積極的に進み、いまは様子見か。ウソか本当か、東ドイツ出身のメルケル元首相の時にウクライナがそのまま負けてロシアの侵攻が進むとドイツはありがたい、と言ったとか。さすがヨーロッパ人だ。騙し合いの烏合の衆といったところだな。そして、北海道にも本当かどうか攻撃を仕掛けると言っている。

南方日本人には理解できない事かもしれないが、危険な場所は北である。何度も書いてきたが、北と南が戦えば北が勝つ、東西が戦えば均衡状態が続くのだ。日本の明治以降の近代史は、欧米の北の文化が南（薩摩、長州、土佐）から北の江戸に向かったので、TVドラマでも南日本文化が正しいとなる。このことは中国南部のイチ漁港だった香港、マカオが北の文化圏に取り込まれたからであっ

て、アグネスチャンが言う「香港人が頑張った」からではない。

薩摩、長州、土佐が悪いと言っているわけでもない。金髪・ブルーアイのアンゲロサクソンが歴史を変え、歴史を作る過程を正しく知ることが重要だということなのだ。その金髪・ブルーアイのアンゲロサクソンの文化が北海道にも来たが、南の文化を凌駕するほど浸透しなかった。残念ながら、農業の話である。

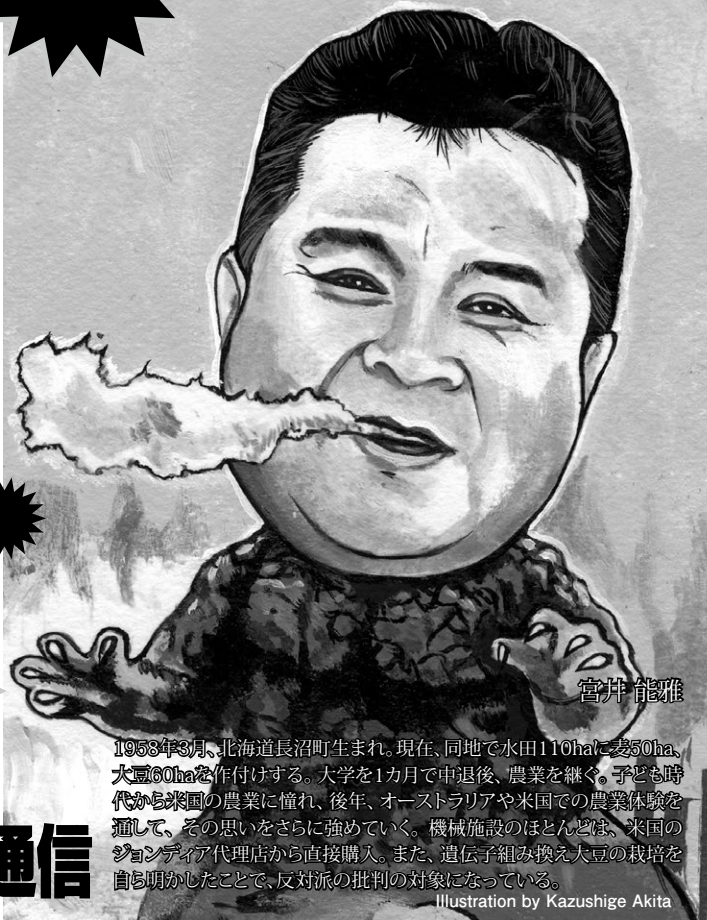
水田転作、畑作との違いは？

さて、昨年ほど日本農業新聞を隅から隅まで視力検査を受けるように舐めまわしながら読んだ年はなかった。ちなみに本誌は日本農業新聞に広告を入れたら黒塗り広告で表示されたことがある。きつと凄くいい、この一粒で元氣モリモリ系などより過激なエロ雑誌と勘違いされたのだろうか。

一昨年の10月、11月から3000億円の水活（水田活用交

お前ら、地獄を見ることになるぞ！

Vol.178



宮井 能雅

1953年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

オレにも
言わせる！

北海道長沼発
ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

と5年（今年から4年）以内に畔を作り、1カ月間水張りをしなさい、で落ち着いたようだ。

水活だけで40万円/haのお金が動くのだから、はいゼロになりました、では経営に間違いなく影響するどころか、営農すら不可能になる。残念ながら、この1年間の流れで水活の予算に比べてわずかしかならない畑作生産者の理解は得られていないのが実情だ。

畑場では麦、豆類、ビート、イモなどの北海道畑作4品の平均売上は100万〜150万/haになるのだろうか。地元長沼は水田がほとんどだったが、この30年で90%近くが転作して畑作になった。転作して畑場と同じ麦を栽培すると、プラス40万円/haもらえる！算数を学んだ子供たちはそう答えるだろう。同じ収量だったらその通りに間違いはない。現実には麦の収量平均が畑場よりも気象条件などで10〜20%は低く、40万円/haの収入が加算されてもせいぜいその半分の半分くらいの収入アップにしかない。

それに元水田は圃場の大きさ、水利費用だ、用水管理だ、河川管理だ、暗渠排水管理だ、の人的なコストは面積に比例

してすべて生産者が行なう。その負担は畑場にはないコストだ。

さらに絶対的な平均面積が違う。十勝だと40ha、50haという数字だが、地元長沼は20haにも到達していない。商売している方だと理解できるが、売上が2倍になっても経費は2倍にならない。自分の給与等を考えると、2倍の経営面積の違いが、収益面でものすごく差を生んでいる。

長沼では、収入が麦よりも明らかに多いビート栽培やイモ栽培に力を入れている生産者はいない。理由は水が海拔5.5mで1メートル土を掘ればいくらかでも水がある。そんなところで根菜系の作物を作っても良い物は取れないし、土が物理的にグチャグチャになり、暗渠敷設の間隔が麦の半分程度になる。喜んで自費で暗渠施設代金100万円/haを払いたい転作生産者を見たことはない。「長沼で干ばつ被害はない」と長沼では先輩たちがよく言っていた。100%正しくはないが麦栽培ではその通りだと思う。

泣き言ばかり言っても収入は増えないし、現実に対応する能力しか持ち合わせていない。あまり考

え過ぎずに言われた選択からできることを実践するしかないのだ。

稲WCS栽培の皮算用

そうなる、選択肢の一つに水田栽培？このヒールさまが？残る選択肢は畔を作り、水を張り、稲WCS栽培も検討した。刈り取りのモアに、集積のテッダー、ロールするベラー、それをラッピングする巻き巻きマシーン……機械の導入で4000万円から、やっぱりきついよな。機械を7年リースで購入して稲WCSを畜産農家に販売しようかな、と考えたが、じゃあ具体的にどこに？、誰に？、輸送代は？、積み込みは？となった。

地元唯一ある肉牛屋さんはIPPパイ・IPPパイの供給を受けているので新規を見つけないければならなかった。何とか掻い潜って十勝の肉牛屋さんを見つけた。

そもそも論になるが、この稲WCSはなぜか肉牛屋さんには好評で、牛乳を生産する酪農屋さんには評判がイマイチどころか評判が悪いのだ。なんでも肉牛にWCSの原料の米を食べさせると肉質が良くなる、らしい。ダメもとで酪農屋さんにコンタクトをとって稲

WCSの話をしたが、全く食指を伸ばすことはなかった。それどころかこう言われた。「飼料はお金を出せば買えますよね？」。

肥料も飼料も一昨年から60%以上値上がりしているにも関わらず、この発言だ。その結果90%以上の酪農家が単年度赤字に陥った。

長沼近郊の酪農屋さんは1960年代に札幌の開発で土地を売り、近郊に引っ越した者がほとんど。そして未だに札幌市内に億から数十億の資産がある。持っている機械や自家用車の種類が全く違うのだ。ひがんでも何も生まれないので努力はしてみた。近所の稲WCS生産者からロールを2個ほど譲り受け、知り合いの札幌近郊の2軒の酪農屋に持ち込み、実際に牛に食べてもらって評価を得てもらおう算段だ。何とか納めたが、やはり「食べるかな、どうかなく、やったことないし」となる。

農水省さんその辺のことを勉強しているのか、もしくはWCSを普及させるつもりが本気であるのか、いま一度調べていただきたいですね。

そんな余裕ぶっこいている酪農家に一言。「お前ら、地獄を見ることになるぞ！」